

# トマト

科名：なす科  
 原産地：南アメリカ熱帯地方  
 生育適温：25～30℃ 発芽適温：28～30℃  
 別名：あかなす

## ◎ 栽培カレンダー

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通栽培						苗の植付け x-----						
												収穫 □□□□□

## ◎ 栽培に必要なもの(10㎡あたり)

- トマト苗……………24本
- 肥料:堆肥 30kg
- 苦土石灰 1.5kg
- 元肥用化成肥料(10-8-9)2kg
- 追肥用化成肥料(10-2-9)2kg
- 支柱:180cm程度の支柱30本、ポリひも

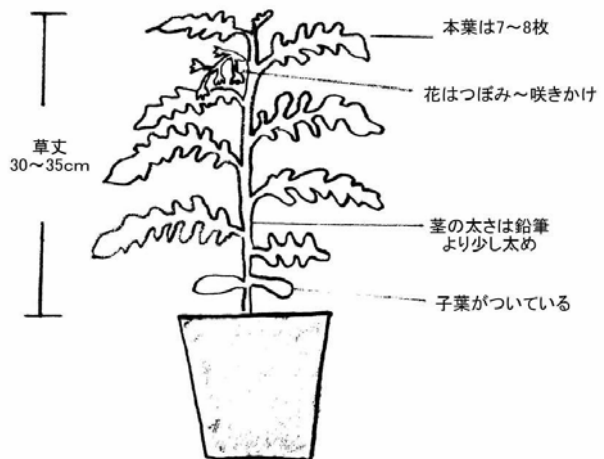


## 畑づくり

- ・ 種まきの2週間前に、堆肥や苦土石灰を
- ・ 施用して、土づくりを行っておきます。
- ・ 植付け前に元肥を施し、幅180cmのうねをたてます。

## 苗の選び方

- ・ 茎が太く、節間の詰まった苗を選びます。
- ・ 苗の大きさは最初の花房の花が咲き始めるころの大苗(ミニトマトは本葉6～7枚の子苗)。



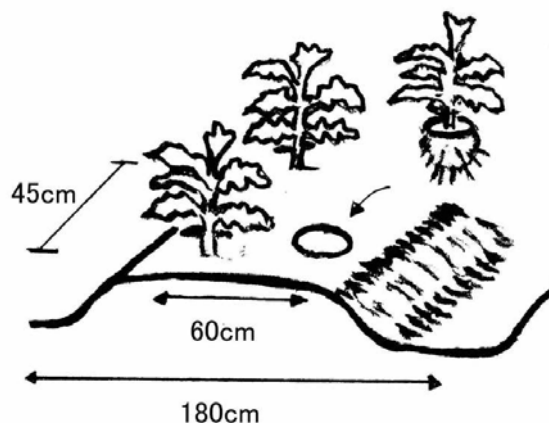
## 広島市内産の「トマト」

市内では安佐南区の佐東・安古市地区、安佐北区の可部・高陽地区、安芸区の瀬野川地区などで栽培されています。ビニールハウスに3月ころ植付け、5月から8月にかけて収穫する「半促成栽培」が主流です。以前は春夏にトマトを栽培し、秋冬にほうれんそうなどの軟弱野菜を栽培する方法が一般的でしたが、最近では軟弱野菜の周年栽培が拡がり、トマトの生産は減少しています。

## 植付け

うね幅 1.8m 株間 45×60cm 2条植え

- ・ 植付けは晴天日の午前中に行います。
- ・ 植付け後、根と土が密着するようにたっぷりかん水します。
- ・ 花の房は同じ方向に付きます。夏の強い西日で果実が日焼けをおこさないように、花が東か北向きになるように植え付けます。

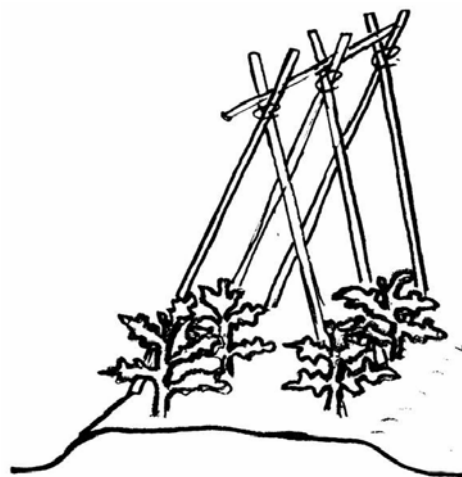


## 支柱立て

- ・ 植付け後、支柱を立て、茎と支柱を∞の字に結びます。

## かん水と追肥

- ・ 苗が根づいたら控えめにかん水して根が深く入るようにします。朝、葉の縁に水滴がついていたら、根付いたしるしです。午後少しおれかけんでも、朝に水滴がついていたら、水が足りています。
- ・ 1段目の実が親指の爪の大きさになったら、かん水を増やすとともに、追肥として化成肥料を200g施します。その後1週間おきに条間とうねの肩と交互に追肥します。



## 管理

- ・ 節からでるわき芽を早めにかき取り、主枝1本だけを伸ばします。
- ・ 花が咲いたら、支柱を軽くたたいて振動させ、めしべに花粉を付ける作業をします。
- ・ 夏の高温乾燥期には、しきわらを十分に湿らせて、地温が上がらないようにします。
- ・ 大玉トマトの場合、生育の悪い実は取り除いて、1段で4~5個残します。ミニトマトの場合は実の間引きは行いません。

## 収穫

- ・ 花が咲いてから40~60日で実が色づくので、赤くなったものからハサミで収穫します。



トマトは江戸時代、観賞用として日本に伝わりました。食用に利用されるようになったのは明治時代以降です。

トマトには100g中にビタミンCを20mg含む他、ビタミンAやB群を含んでおり、体の調子を整えたり、かぜをひきにくくする健康食品です。西洋では「トマトが赤くなると医者が青くなる」と言われています。